

沖縄サミット視察報告

サミット推進室 主幹 秦 野 道 也

8月27日(月)～29日(水)の3日間、とうや湖温泉旅館組合からの呼びかけを受け沖縄県名護市等の視察を行いました。

27日はサミット会場である万国津梁館で説明を受け、28日は名護市役所のほか飲食店関係者とホテル関係者に当時の状況を伺い、29日は沖縄県コンベンションビューロー(県の観光協会)で県職員より県民会議等の話を伺い、大変のりある視察となりました。

九州・沖縄サミットは平成12年に行なわれましたが(当町は



万国津梁館のサミットメイン会場

有珠山噴火災害のまっただ中であり、2,000円札が発行された年)、初の地方開催であることや(過去3回は東京開催)、9・11アメリカテロ事件の前であったことで、現在と状況は違うと思いますが視察した内容を報告いたします。

万国津梁館

(ばんこくしんりょうかん)

サミットのメイン会場として使用され、建設中にサミット開催が決定されたそうです。

万国が世界、津梁はかけはしで、「世界の架け橋」になるという言葉でつけられました。

実際サミットが行なわれたサミットホールは、最大220名収容とさほど大きくはありませんが、舞台や多国籍の言語を翻訳する同時通訳室があり、セキュリティサービス・インターネット環境など会議場としてハイレベルな設備が完備されていました。現在は国際会議等にも使用されています。

警備関係

沖縄で首脳が宿泊したのは、1市2村にわたる別々のホテルに宿泊したため警備の幅が広がったようです。正式に交通規制案内図(サミット期間の規制)が発表されたのは、開催の少し前だったようです。

首脳が道路を通過する際は厳しい警備がひかれましたが、それ以外はさほど厳しくは無く一般車両が通過できたそうです。市民生活への影響を確認したところ、警察からの情報が遅いため不安ではあったもののそれほどどの混乱はなかったことでした。

ボランティア活動

ボランティアが最大の力となつたと強く主張されています。語学ボランティアや美化活動ボランティアなど合計1,700名を超えたとのこと。また、民間団体として、「名護地区地域安全協力会」が結成され、交通整理・防犯活動など様々な支援を行なっていました。

イベント

イベントは300日前、200日前、100日前、50日前、前日イベントや花いっぱい運動など数多く行なっていて、サミット間近の大きなイベントは警察等が少し控えて欲しいというスタンスであったそうです。また、参加国との関係、歴史を掘り起こし大統領を招聘して交流を図るイベントなども企画しました。



名護市役所での意見交換

感想

実際は首脳クラスが来てくれることはなかったのですが、大使が来てくれるなどして、今も交流が続いているそうです。いつも歓迎の気持ちをお忘れないうほしいと助言を受けました。

今回の視察で一番印象に残った言葉が、「自信と誇り」です。これは、市民・県民がみんなでも関わり共に汗を流し、サミットを成功させたという意識の中に、「自信と誇り」という貴重な心の資産を残すことができました、ということなのです。そして、地域協働によるまちづくりが進み「沖縄が変わった」と言われ、名護市ではサミット開催前に比べ60%以上の宿泊客が増えています。

さらに若い人たちが世界に目を向けるようになったことでした。最後に、サミットの成果を洞爺湖町のまちづくりにつなげていくことを共通目標にしてほしいとの助言をいただき感銘を受け帰町いたしました。